

12月
定例会

政策実現に全力

西山、塩野両議員が一般質問

埼玉県議会12月定例会が去る12月22日、閉会した。西山淳次議員と塩野正行議員が一般質問に登壇。公明党県議団は、県民の目線から政策を実現すべく常任委員会や特別委員会でも活発に質疑を行うなど全力で取り組んだ。今定例会では、総額八三九〇万円の一般会計補正予算案やアスベスト対策など86議案が提案され可決した。

た「熱意のある教員を重点的に配置すること」を約束した。さらに、学ぶことの意義を見つけることのできるシステムを構築すると答弁した。

西山議員は、耐震強度偽造問題、新年度予算編成、政策評価、教育と政治の在り方、ノーマライゼーション教育、県立高校中退問題、読書活動などについて質問。高校中退問題では、高校入学直後の1年次に退学する生徒が多い実情などを訴え、その対策を求めたのに対し、教育長は「中途退学率の高い高校を指定して、効果的な体験活動や就業体験を実施すること」、ま

塩野議員は、子どもの安全、乳幼児医療費の助成拡大、創業・ベンチャー支援、団塊の世代を生かした中小企業支援、保健医療体制の充実、障害者の自立などを質問。乳幼児医療費の助成拡大では、県内のほとんどの市町村が就学前まで医療費を無料にしているのに対し、県の助成は4歳児までにとどまっている現状を改め、就学前まで引き上げるよう求めたのに対し、知事は「18年度予算編成での実現を前提に積極的に検討する」と答弁。実現すれば、県内12の市町村がまだ就学前までの無料化を実現していない現状が改善される期待が大きい。



西山 淳次 議員



塩野 正行 議員

県立精神医療センターに 小児科を新設

ベッド数も
80床増床

埼玉県立精神医療センターが、新病棟の開設に伴い、今年4月1日から大幅に機能強化される。診療科目に小児科を新設するほか、新病棟に80床（急性期受入病棟50床、児童思春期病棟30床）増床する。増床により365日24時間体制で精神疾患患者を受け入れる体制を整える。また、児童思春期病棟は小中学校を対象とする県内初の病棟となり、院内学級も設置される。さらに、自閉症やADHDなどの症状を有する発達障害児の外来及び入院治療が開始される。公明党議員団は、発達障害における医療体制の拡充を訴え続けた。粘り強い努力がようやく実を結んだ。

脱法ドラッグを規制へ

森泉質問
により実現

麻薬取締法などの規制
外のいわゆる

埼玉県は、麻薬と同じような幻覚作用を持ちながら法律で製造や販売が禁止されていない「脱法ドラッグ」を規制する独自の条例を制定する方針を決めた。脱法ドラッグについては、森泉義夫議員が17年6月定例会の一般質問で取り上げ、実現の見通しとなった。

森泉議員は、薬物の乱用による幻覚や妄想が原因で殺人や傷害事件がたびたび起きている現状に対し、

県は、条例制定を昨年11月16日に開かれた埼玉県地方薬事審議会に諮問、同審議会は今年2月までに答申をまとめる方向で応じる予定。その後、議会に議案として上程される見通しになった。脱法ドラッグは主にインターネットを通じて一〇〇〇円前後で販売されており、若者を中心に流行している。二〇〇三年度以降、幻覚症状により自分の手首を切るなどの事故が県内でも5件報告されている。

耐震強度偽造問題で 知事に申し入れ

公明党県議団は昨年11月24日、姉歯建築設計事務所（千葉県）がマンションやホテルなどの構造計算書を偽造した問題で知事に申し入れを行った。県民の生命と財産に直結する問題であり、構造計算書の偽造が断じて行われないようにするとともに、建築確認事務を行っている県内2団体に対する指導や監視など必要な対応を強化することなどを求めた。その後、川口市のマンションで偽造が発覚、県内にも影響が及んでいる。

残虐TV ゲームを 有害指定

公明の訴えが実現

埼玉県は、青少年健全育成条例に基づき、「グラインド・セフト・オートⅢ」を残虐なTVゲームとして有害図書に指定、18歳未満への販売を禁止した。残虐なTVゲームについては、畠山清彦議員が10年前から規制を訴えてきたほか、森泉議員も昨年6月定例会で一般質問するなど、公明党議員団は一貫して規制すべきと訴えてきた問題。残虐性の高いゲームに熱中していた少年が殺人事件を起こすなど社会問題にもなっており、今回の指定は神奈川県に続き全国で2例目となる。



読売新聞に掲載された記事